

木材販路開拓のための

海外市場情報

2006年8月号(No.5)

目次

1 . 2005 年中国木材貿易概況と 2006 年市場展望.....	1
1.1 原木輸入実績.....	1
1.2 製材品輸入実績.....	3
1.3 木製品輸出実績.....	4
1.4 2006 年木材市場の見通し	5
1.5 木材産業の発展対策.....	5
2 . 上海木材市場の特徴と木材産業対策.....	7
2.1 木材需要の増加要因.....	7
2.2 木材の消費特徴と需要傾向.....	7
2.3 木材産業発展の制限要因と対応策.....	8

1. 2005 年中国木材貿易概況と 2006 年市場展望

中国の木材製品(原木、製材品、木質パネル、木製家具、木質フローリング、木製ドア)貿易総額は、2005 年に 157.5 億ドルにのぼり、前年比 27.3%増加している。うち、輸入額は 54.9 億ドル、前年比 9.3%増、輸出額は 102.6 億ドル、前年比 39.5%増となっている。輸出入のバランスが 47.7 億ドルの輸出超であったことから、中国の木材貿易全体に占める加工貿易の割合が大きいこと、および中国が木材製品の大輸出国であることがうかがわれる。

1.1 原木輸入実績

2005 年の原木輸入量は前年比 11.9%増の 2,936.8 万 m³ に達し、伸び率は前年より 8.8 ポイント高い。うち、針葉樹原木の輸入は 1,827 万 m³、前年比 14.5%増、広葉樹原木の輸入は 1,109.8 万 m³、前年比 7.9%増となっている(表 1-1)。

表 1-1 中国の原木輸入実績(2004-2005)

区分		輸入量(万 m ³)	増減(万 m ³)	前年比(%)
原木 全体	2004 年	2,624.4	78.4	3.1
	2005 年	2,936.8	312.4	11.9
針葉樹 原木	2004 年	1,596.2	99.2	4.8
	2005 年	1,827.0	230.8	14.5
広葉樹 原木	2004 年	1,028.2	-19.8	-1.9
	2005 年	1,109.8	81.6	7.9

出所:中国木材流通協会

中国は 2005 年に 70 数カ国から原木を調達している。北洋材を除き、原木供給の州別では、PNG 材・ソロモン材・NZ 材・オーストラリア材を中心とする大洋州材は 336.2 万 m³ で、初めてアジア材の 323.4 万 m³ を上廻った。アフリカ材は前年比 6.8%増の 179.2 万 m³ に達している。欧州材が 57.5 万 m³ (前年比 36.9%)、北米材が 32.8 万 m³ (同 51.2%)、南米材が 3.5 万 m³ (同 288.9%) と続く。

さらに、原木の仕入国別輸入量をみると、ロシアからの北洋材が最も多く、前年比 18.2%増の 2,004.3 万 m³ にのぼり、中国の輸入原木の全体に占める割合は前年の 64.6%から 68.2%に上昇している。これは、アカマツ(輸入量 953 万 m³)、カラマツ(415 万 m³)、エゾマツ(356 万 m³)を中心とする北洋材原木に対する中国の建築資材や輸出品加工用の旺盛な需要によるものである。

マレーシアは 186 万 m³ で、昨年に引き続き原木輸入相手国の第 2 位となっているものの、輸入量は 2 年連続減少しており、2003 年の 293.1 万 m³ と比べて 36.5%減少

している。この減少が、マレーシアを経由するインドネシアからの違法伐採丸太への取り締まりの強化による、と専門家は指摘している。ちなみに、インドネシアからの丸太輸入は、2001年の138.9万m³から2005年の5万m³に急減している。

PNGは原木輸入相手国の第3位にランクされ、2005年には183.5万m³を中国に輸出し、前年比39.5%増加している。PNGは4,000万ha、29億m³の豊富な森林資源を有しており、しかも樹種がインドネシアの樹種に近いので、原木輸入の相手国として中国に重視されている。

ミャンマーは3,800万ha、31億m³の森林資源を擁しており、2005年に中国へ113.3万m³を輸出し、前年比7.5%増となっている。最近では丸太輸出の削減策をとっているため、今後ミャンマー産原木の対中国輸出は増えると思わない。

ガボン、ソロモンは中国にそれぞれ81.4万m³、65.3万m³を輸出し、前年比でそれぞれ28.8%、45.1%と大幅に増加している。中国の専門家らは、このような大幅増の起因が、インドネシア産広葉樹原木の対中国輸出の減少分をガボン、ソロモン産広葉樹原木の輸入にシフトしていることにあるとみている。

中国がニュージーランド産のラジアータパインに対する需要は大きく、2003年の輸入量は192万m³に達したことがある。しかし、その後、高い為替レートと海上運賃の高騰により、ラジアータパインの中国の港着価格は2003年の1m³あたり65.2ドルから2005年の100ドルと53.4%の値上がりとなっている。価格の競争力がなくなったため、中国のニュージーランド産のラジアータパインの2005年輸入量は、2003年輸入量の1/3の63.8万m³まで減少した。今後、ラジアータパインの価格競争力が回復すれば、中国への輸出増は可能と考えられる。

中国の高級内装や家具用材の需要増を受け、対中国の北米産丸太の輸出は増加傾向をたどっている。2005年のアメリカ産丸太の輸入は19.4万m³、前年比32%増、カナダ産丸太の輸入は13.1万m³、前年比92.6%増となっている(表1-2)。

表1-2 中国の相手国別原木輸入量(2004-2005)

輸入相手国	2005年		2004年	
	万m ³	順位	万m ³	順位
ロシア	2,004.3	1	1,696.2	1
マレーシア	186.0	2	272.2	2
PNG	183.5	3	131.4	3
ミャンマー	113.3	4	105.4	4
ガボン	81.4	5	63.2	6
ソロモン諸島	65.3	6	45.0	8
NZ	63.8	7	83.7	5
コンゴ	45.4	8	49.3	7

ドイツ	44.5	9	35.9	9
赤道ギニア	30.4	10	30.9	10
オーストラリア	23.6	11	28.9	11
アメリカ	19.4		14.7	
カナダ	13.1		6.8	

出所：中国林業科学研究院

1.2 製材品輸入実績

製材品の2005年輸入量は597.3万m³となり、前年比0.5%減少した。うち、針葉樹製材品は188.3万m³にのぼり、前年と比べて10.8%増加している。一方、広葉樹製材品は409万m³で、前年比5%減少している(表1-3)。特に、熱帯木材生産国による木材伐採の縮小により、熱帯木材の丸太供給がさらにタイトとなり、熱帯広葉樹製材品の価格は前年比で15.6%上昇した。その結果、中国の熱帯広葉樹製材品輸入は大幅な減少となった。

表1-3 中国の製材品輸入実績(2004-2005)

区分		輸入量(万m ³)	増減(万m ³)	前年比(%)
製材品 全体	2004年	600.4	49.4	8.9
	2005年	597.3	-3.1	-0.5
針葉樹 製材品	2004年	170.0	32.7	23.8
	2005年	188.3	18.3	10.8
広葉樹 製材品	2004年	430.4	16.5	4.0
	2005年	409.0	-21.4	-5.0

出所：中国木材流通協会

製材品の仕入国別輸入量では、インドネシアは輸入最大の相手国として2004年まで他の国に譲れなかったが、2005年には前年比25.1%減の72万m³で4位に後退した。ロシア製材品が手頃な価格で中国消費者に愛用されることに加え、ロシア当局が製材品の輸出推進もあったため、ロシアは2005年にインドネシアの代わりに最大輸入相手国となり、前年比32.3%増の105.7万m³にのぼった。

对中国輸出のアメリカ製材品の大半が広葉樹製材品で、良い材質と安定的な価格で中国消費者から愛用され、高級内装や家具用材として需要が好調である。このため、中国は2005年にアメリカ製材品85.3万m³を輸入し、前年比9.1%増加している(表1-4)。

表 1-4 中国の相手国別製材品輸入量(2004-2005)

輸入相手国	2005 年		2004 年	
	万 m ³	順位	万 m ³	順位
ロシア	105.7	1	79.9	3
アメリカ	85.3	2	78.2	4
タイ	76.2	3	83.5	2
インドネシア	72.0	4	96.1	1
マレーシア	47.5	5	43.1	6
カナダ	35.0	6	43.9	5
ミャンマー	32.1	7	25.2	9
ブラジル	28.0	8	32.3	7
NZ	21.7	9	28.0	8
チリ	14.3	10	12.0	10

出所: 中国林業科学研究院

1.3 木製品輸出実績

2005 年の原木、製材品の輸入額は 47.5 億ドルで、木材製品全体の輸入額の 86.5%を占める。一方、木製品輸出額は木製品輸入額の 1.9 倍の 102 億ドルにのぼり、木材製品全体の輸出額の 9 割以上を占める。このことから、中国が世界の木材製品の加工地であることが分かる。

中国の主要木製品の 2005 年輸出実績を表 1-5 に示す。この表から分かるように、木製家具の輸出額は 69.8 億ドルにのぼり、木製品輸出総額に占める割合は 68.0%と最も高い。2005 年 1 月 9 日から、米国向けの中国の木製寝室家具に高額の特別関税が課されたが、これを受けた中国の家具業界は企業の統廃合、輸出地域の多様化などの対応策を進めた。その結果、米国向けの輸出が減少したものの、欧州向け(特にフランス、イギリス向け)の輸出は増加となり、2005 年の木製家具の輸出額は前年と比べて 33.5%増加した。

表 1-5 中国の木製品輸出実績(2004-2005)

品名	2005 年		2004 年	伸び率 (%)
	億ドル	シェア (%)	億ドル	
木製家具	69.80	68.0	52.29	33.5
合板	18.36	17.9	12.45	47.5
繊維板(木質フローリングを含む)	3.96	3.9	1.26	214.3
木製ドア	3.50	3.4	2.25	55.6

その他	6.98	6.8	5.31	31.5
計	102.60	100.0	73.56	39.5

出所：中国木材流通協会

中国の合板産業の目覚ましい成長を受け、合板の輸入量は年々減少し、一方、輸出量は増加傾向をたどっている。2005年には、欧米、中東、日本を中心に554.3万m³を輸出し、前年比29.2%増加している。輸出額は18.39億ドル、前年と比べて47.5%増加している。一方、合板の輸入量は58.4万m³で、前年比25.1%減少。

繊維板(木製フローリング)の輸出は近年大きな増加傾向を見せている。2005年には、80.6万tを輸出し、前年比287.5%増加している。うち、木質フローリングの輸出量は34.5万tで、前年比543%増加している。一方、輸入量はわずか4.65万tで、輸出量の11%に当たる。しかし、2002年には、木製フローリングの輸入量は輸出量の11倍であった。このことから、木製フローリング産業の近年の急激な成長がうかがわれる。

木製ドアの輸出もこの数年増加している。2005年の輸出額は3.5億ドルで、前年比55.6%増加している。

1.4 2006年木材市場の見通し

2006年の木材市場について、中国木材流通協会会長朱光前氏は、次のように指摘している。

- ・ 木材需要は、堅調な経済成長に支えられ、引き続き高まっていく傾向にある。
- ・ 過熱な不動産業に引き締め政策を実施しているが、マイホーム志向、住宅需要者の多さ、公共・商業施設の好調な需要などの要因の働きで、不動産建設は増加基調にある。内装、家具に対する需要は不動産建設で牽引され、木材、特に広葉樹材の需要は増加していくだろう。
- ・ 政府は「新しい農村建設」政策を打ち出し、農村部の建設を強力に推進している。このため、農村建設用材の需要は増えるだろう。
- ・ 内装スタイルの変化、健康・環境意識の向上に伴い、品質の悪い合板への需要は減少しつつあり、品質保証ができない合板工場の生産中止や廃業を余儀なくされる。
- ・ いくつかの大型なMDF工場、パーティクルボード工場、製紙工場は年内に竣工、稼働する。これによって、タイトな状況にあった木材、木材チップの供給はさらに逼迫し、木材価格は上昇傾向。

1.5 木材産業の発展対策

以上のような情勢がとりまく木材産業に対して、前記の朱光前氏は、さらに次のような対策を提言している。

- ・ 木材の合理的な伐採利用による効果的な環境保護、省エネルギーおよび木造住宅の健康性を考え、木材製品の利用拡大を提唱する。
- ・ 早成樹や貴重な樹種の植林推進、木材リサイクルの推奨。
- ・ 付加価値の高い木材製品の開発を強化し、木材産業レベルの向上を図る。
- ・ 政府は木材産業に対するマクロ的な管理を強化し、企業はCSRを樹立し、過剰な生産拡大や不当な価格競争を止め、製品の品質、ブランド、信用の向上を努め、国内外の販売ネットワークを構築する。

2. 上海木材市場の特徴と木材産業対策

2.1 木材需要の増加要因

上海は中国経済を牽引する長江デルタ経済圏の竜頭であり、黄浦江の沿岸開発、環状線、万博会場、陸家嘴金融区、淮海中路商業区などのインフラ整備、松江新城、海港新城、嘉定新城の都市建設を着々と進めている。このような開発ラッシュの中、木材需要は堅調な伸びを見せている。

具体的に、どのような要因で、上海の木材需要を大きく増加させているのか？上海木材業界の専門家は次のように語った。

- ・ 不動産の成長は木材需要増の最大な要因である。この数年、上海の年間建築物の完工面積は2,500万m²にのぼり、うち住宅は1,800万m²にのぼる。また、着工中の面積はこれ以上の規模になる。床面積1m²当たりの建設に使われる木材が、住宅では0.045m³、公共建築物では0.055m³というデータで換算してみると、完工建築物の年間木材使用量は130万m³に達している。
- ・ 上海の住宅内装の消費額は年間83億元にのぼる。こうした巨大な住宅内装に、多くの木材は使われる。
- ・ 住宅リフォームは上海の木材需要を大きく増加させている。上海の住宅保有量は約2億m²である。既存住宅が10年ごとにリフォームを行う場合、木材の年間需要量は100万m³と推定される。
- ・ 上海の家具消費額は年間15億元にのぼり、多くの木材、木質パネルは家具製造に使われている。
- ・ 輸出向けの合板の製造に多くの輸入材が消費されている。

2.2 木材の消費特徴と需要傾向

上海木材市場には、以下の消費特徴がみられる。

- ・ 木材消費の多様化。上海経済の持続的な成長、市民所得の向上、ライフスタイルの多様化に伴い、木材に対する需要ニーズは多様化している。このため、世界中から仕入れた多くの樹種や様々なグレードの輸入木材は、上海木材市場に流通している。
- ・ 製材品、広葉樹を中心とする木材輸入。上海木材市場は中国の他の地域と異なって、製材品の輸入量は原木輸入量より大きく、広葉樹原木の輸入量は針葉樹原木の輸入量より大きい。輸入原木の広葉樹：針葉樹の比率は、中国全体では35:65、上海では85:15となっている。
- ・ 木材消費の高級志向。住宅の高いレベルの内装が比較的価格の高い貴重な広葉樹を求めており、また上海域内の高い加工コストにより原木の輸入より製材品、半製品の輸入を中心に行っているため、上海の輸入木材の価格は中国全

体の平均価格より36%と高い。

また、今後の上海木材市場には、以下の需要傾向があると考えられる。

- ・ 原木輸入はさらに減少し、製材品、半製品の輸入はますます増加しつつある。
- ・ 中高級の広葉樹木材の輸入比率はさらに高まってくるだろう。
- ・ 上海森大木業有限公司をはじめ上海および周辺地域の合板企業の生産拡大を受け、オクメなどの合板用材の需要は大きく増えてくるだろう。

2.3 木材産業発展の制限要因と対応策

上海の木材産業の発展において、「資源のない」、「技術や設備の遅れ」という二つの大きな制限要因がある。周知のように、上海には木材資源がほとんどなく、コウヨウザン、バビショウなどの国産材は一部の需要にしか満たされず、木材の供給は主に輸入材に頼っている。このため、木材の国際貿易は上海の木材流通ないし木材産業全体の発展にとって大きな役目を担っている。また、上海の木材産業全体のレベルは全国と比べて高いといえるものの、先進国より遅れている。上海の木材産業レベルの向上を図るためには、先進的な技術や設備の導入は必要である。

一方、上海木材産業には、高付加価値製品の生産能力が比較的高いこと、木材の国際貿易に慣れていること、上海を中心とする華東地域における年間木材需要量が全国の需要量の約4割を占める3,000万m³であること、華東地域の木材流通のハブであることなどの有利な条件を有している。

上海木材産業の発展における上記の不利、有利条件を踏まえ、上海木材業界の専門家は、木材産業発展の対策を次のように指摘している。

- ・ 貿易・流通型木材産業の育成。木材資源の弱点を避けて、先進技術を導入するとともに、上海港をはじめ発達している流通関連のインフラや市場を活用し、貿易・流通型の木材産業体系を確立する。
- ・ 木材産業内の企業間の再編成、川上と川下企業間の協同・整合を進め、原材料、製品の流通コスト、加工コストの削減を努め、木材企業、木材産業全体の国際競争力を高める。
- ・ ブランド戦略の実施。ブランドそのものが重要な資源であることを認識させ、木材関連企業はブランド経営の観念を樹立し、製品のブランド、サービスのブランドを育成し、企業の知名度を高める。
- ・ 原木輸出の禁止に対する立法を要請するとともに、木材産業の国際分業のチャンスを生かし、先進的な技術や設備を導入し、付加価値の高い木材製品の生産を拡大する。
- ・ 木材のリサイクル利用を推進し、木材利用の歩留まりを高める。